

## 秋田・藩校明徳館跡

はんこうめいとくかん  
秋田市秋田大字下絵図

会による発掘調査が行なわれ、四点の木簡などが出土した。(本誌  
第二五号)

- 1 所在地 秋田市中通二丁目
- 2 調査期間 二〇〇三年(平15)七月～八月
- 3 発掘機関 秋田県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 五十嵐一治
- 5 遺跡の種類 城下町跡
- 6 遺跡の年代 一七世紀前半～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

藩校明徳館跡は、日本海汀線から東に約五・三kmの秋田低地上に立地し、標高は約六m。JR秋田駅の西約六五〇mにあり、秋田藩

主佐竹氏の居城・久保田城下の内町にあたる。藩校明徳館は、寛政二年(一七九〇)に「学館」の名称で開



(秋田)

学し、寛政五年に「明道館」、寛政七年に「明徳館」と改称され、明治維新まで存続した。本遺跡は二〇〇一年、秋田市教育委員

積は二〇〇m<sup>2</sup>。調査区は、秋田市教委による発掘成果や『久保田城下絵図』などから、藩校敷地の北西側外で、上級家臣である小場家の屋敷地にあたる。調査の結果、土坑五基・溝九条・柱穴(列)などを検出し、多くの陶磁器類や木製品などが出土した。

木簡は、不整精円状の土坑SK三三から一点出土した。共伴遺物には、一七世紀前半の灰釉丸皿や溝縁皿などの陶器類が多く認められた。

### 8 木簡の釈文・内容

(1) 「□□□

下端のみ欠損。墨痕は鮮明であるが、判読できない。

### 9 関係文献

秋田県教育委員会『久保田城跡・藩校明徳館跡』(二〇〇六年)

(高橋 学(秋田県払田柵跡調査事務所))

